



Social Action PROJECT

“知る”から“体験する”へ。広げよう、思いやりの心。

Action 02

2019.3.17(Sun.) 第4節

VS 横浜 F・マリノス **HOME**

アーチェリー -Archery-

障がい者と健常者が、ほぼ同じルールで競い合える数少ないスポーツ。

矢が的に刺さるたびに“バシッ”と心地よい音がソーシャル・アクション・ブース内に響く。精神を集中して矢を放ち、的を射止めた瞬間は、最高の喜びと爽快感を味わうことができるアーチェリー。大分県アーチェリー協会の方々のサポートで開かれたアーチェリー体験ブースは大盛況で終日、長蛇の列が途切れることはありませんでした。

また、大分県アーチェリー協会所属の岩崎(11歳)さんと渡邊(12歳)さんチームと、ポーウィリアム選手・ムンキョンゴン選手の大分トリニータチームが対戦。初めての挑戦にも関わらず、ポー選手・ムン選手

ともに、すべての矢を黄色のエリアに当てる高得点を打ち出し、ここ1番の集中力には驚かされました。勝負は1点差で岩崎・渡邊チームが勝利。「腕がブルブルと震えて、狙いを定めるのが難しかった」とポー選手。ムン選手は「ボクの母国である韓国はアーチェリーの強豪国です。うまく的に当てることができました」と満足そうに話してくれました。

Special Thanks! 今回の活動にご協力いただいた皆様
大分県アーチェリー協会の皆さん
大分大学 アダプテッドスポーツクラブの皆さん
(障がい者スポーツ支援ボランティア団体)

What is it about ?



アーチェリーは、70m先の的に向かって矢を放ち、その得点を競いあう競技です。大きなプレッシャーがかかる競技で、技術力はもちろん精神力や集中力の強さも重要となります。パラリンピック、オリンピックともに古くから正式競技として採用されています。

Impressions

大分市 男性 新社会人



弓道部に所属していたので、アーチェリーにも興味がありました。初めて体験しましたが、和弓より弓が強く、より力が必要なことに驚きました。

Impressions

大分市 男性 新中学生



アーチェリーは、一度やったことがあったので、楽しみにしていました。手が痛くて、難しかったけど、またチャレンジして真ん中に当てたいです。

私たち大分FCは「Social Action Project」を通じて、障がいのある人も、ない人も、お互いを理解し合い、尊重し合うことで、すべての人にやさしいユニバーサル社会の実現に貢献しています。このプロジェクトは2018年3月より、大分トリニータの全ホームゲーム(20試合)で開催。2019年シーズンより、サインポスト(株)様のご協力を頂いております。

Action Snapshot

Social Action
PROJECT

“知る”から“体験する”へ。広げよう、思いやりの心。

2019.3.17(Sun.) 第4節

VS 横浜 F・マリノス **HOME**

アーチェリー -Archery-

Action
02



♥ 未来のメダリスト!?たちとアーチェリー対決!



♥ 真剣に狙いを定める、ムン選手とポーブ選手。



♥ 勝負はなんと、1点差で渡邊・岩崎組の勝利!



♥ 老若男女、気軽に楽しめるスポーツです!



♥ 蒲原社長とニータンも応援に来てくれました!



♥ とても微笑ましい光景ですね!



♥ たくさんの方に楽しんでいただきました!



♥ 競技用の弓はメカニカルでカッコイイですね!



♥ すべて真ん中!の的中!“お見事”のひとつです。

私たちは「Social Action Project」を応援しています。



Signpost

サインポスト株式会社